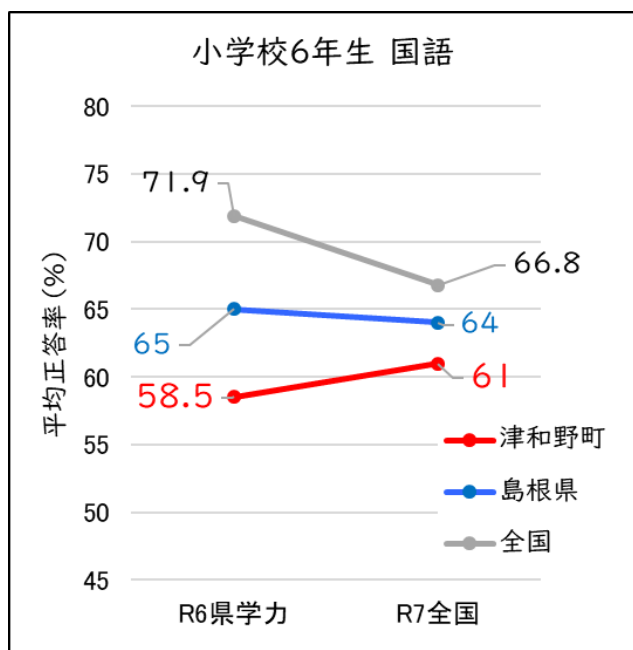


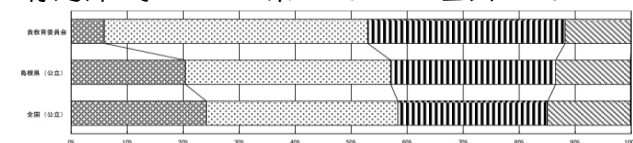


【国語】

- ・正答率は61%で県や全国を下回っている
- ・正答数の分布では、上位層と中位よりやや下の層が多い
- ・中央値は9問で、県・と同じ

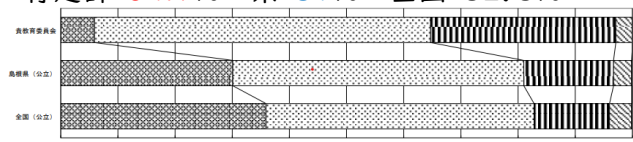
△国語の勉強は好きですか

肯定群 町:53% 県:57.1% 全国:58.3%



△国語の授業内容はよくわかりますか

肯定群:64.7% 県:81% 全国:82.8%



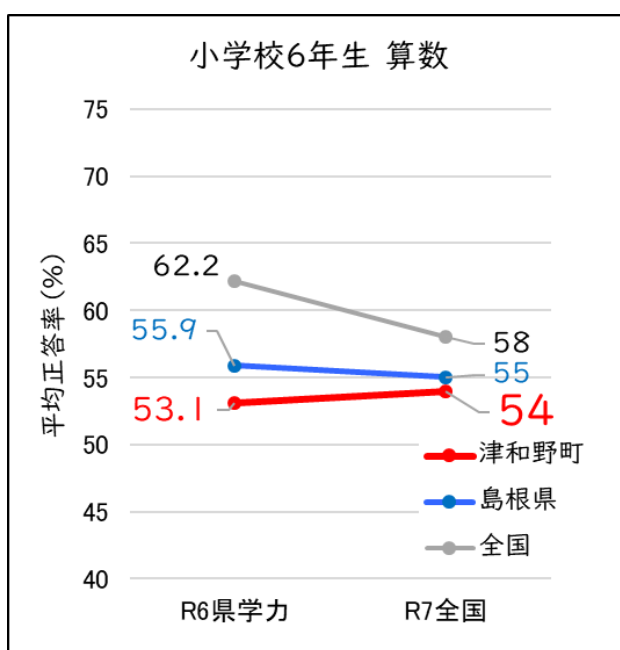
△「知識及び技能」は県・全国を下回る

- ・3つの項目とも県・全国を下回っている。特に、「我が国の言語文化に関する事項」については、県・全国を大きく下回っている（県-23.7pt）。

△「思考・判断・表現」は県・全国を下回る

- ・「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」は、県・全国を上回っている（県+13.2pt）。
- ・記述式問題の正答率は、県・全国を上回っている（県+4.2pt）。

☆前年度の県学力調査に比べて、県・全国との差は縮まってきている。今後も学ぶ意欲につながる、各校の取組を継続することが重要である。

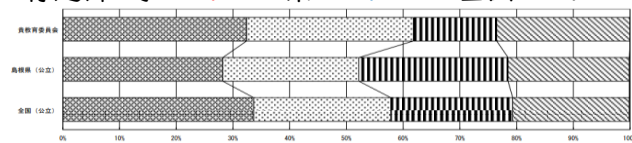


【算数】

- ・正答率は54%で、県や全国を下回っている
- ・全国や県との相対的な相違は改善されている
- ・正答数の分布では中位から下の層が多い
- ・中央値は9問で、県と同じ

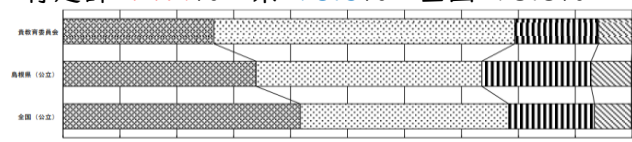
○算数の勉強は好きですか

肯定群 町:61.8% 県:52.2% 全国:57.9%



○算数の授業内容はよくわかりますか

肯定群:79.4% 県:73.5% 全国:78.3%



△「知識・技能」は県・全国を下回る

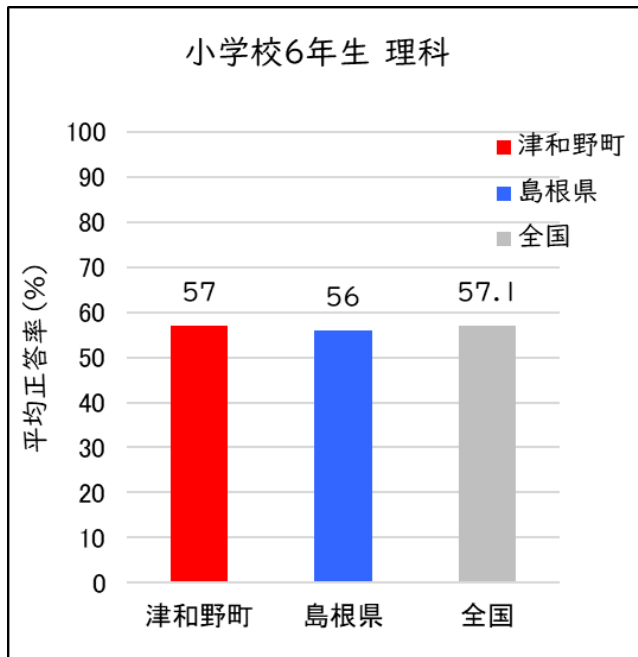
- ・「図形」は県・全国を上回る（県+4.7pt）。
- 無回答が県・全国と比べても少なく、多くの児童が、諦めずに解答している。

△「思考・判断・表現」は県を上回るが全国を下回る

- ・「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと」は県・全国を下回った。（県-4.4pt）。
- ・「「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すこと」は、県・全国を下回っている（県-4.5pt）。

☆算数の勉強が好き、算数の授業内容はよくわかる割合は県・全国よりも高い。今後も、各校の取組を継続していくことが重要である。

◇小学校6年生 (※全国値は公立校のデータ)

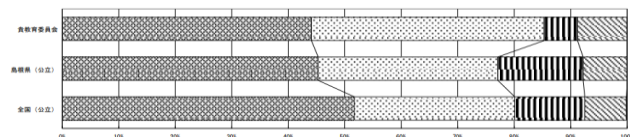


【 理科 】※全問実施できた学校のみ対象

- ・正答率は57%で県・全国と同等。
- ・正答数の分布では上位層と下位層が多いが中間層が少ない。
- ・中央値は12問で、県・全国より2問多い。

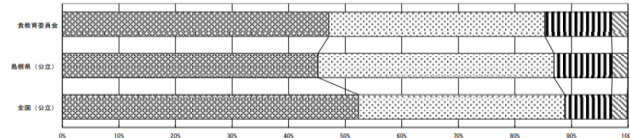
○理科の勉強は好きですか

肯定群 町:85.3% 県:77.1% 全国:80.1%



△理科の授業内容はよくわかりますか

肯定群:85.3% 県:86.9% 全国:88.9%



○「知識・技能」は県・全国を上回る

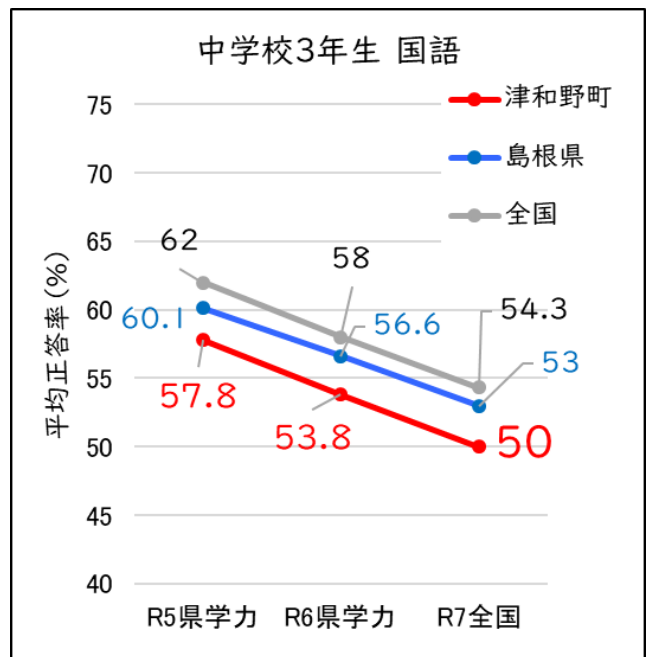
- ・「「地球」を柱とする領域」は、県・全国を上回った (県+4.1pt)。
- ・「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる」問題は、県・全国を上回る (県+9.8pt)。

△「思考・判断・表現」は県を上回るが全国を下回る

- ・「レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現する」問題については、県・全国を上回る (県+7.7pt)。

☆理科の学習は好き・授業内容はよくわかる割合は県や全国よりも高く、記述式問題の正答率も高い。今後も、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を継続していくことが重要である。

◇中学校3年生 (※全国値は公立校のデータ)

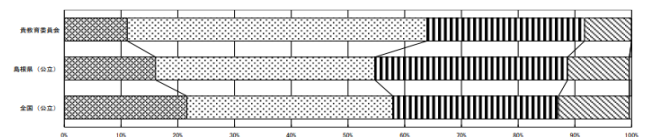


【 国語 】

- ・正答率は50%で県・全国より低い。
- ・全国や県との相対的な相違は変わらない。
- ・正答数の分布では中位層が多い。
- ・中央値は7問で、県・全国より1問低い。

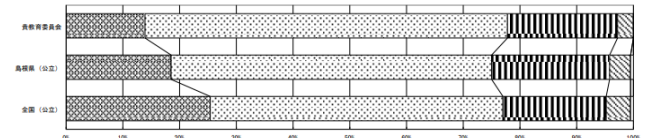
○国語の勉強は好きですか

肯定群 町:63.9% 県:54.8% 全国:57.9%



○国語の授業内容はよくわかりますか

肯定群:77.8% 県:75% 全国:77%



△「知識・技能」は県・全国を下回る

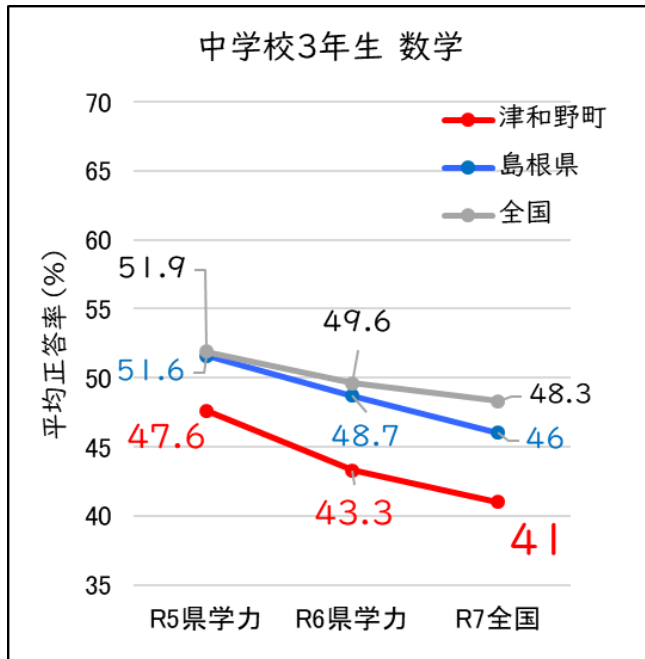
- ・「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる」問題は県・全国を下回った (県-9.4pt)。

△「思考・判断・表現」は県・全国を下回る

- ・「話すこと・聞くこと」は、県・全国を下回った (県-7.4pt)。
- ・「読むこと」は、県・全国を上回った (県+5.9pt)。
- ・「文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える」問題は、100%で県・全国を上回った (県+11pt)。

☆前年度の調査と比較して、授業に対して肯定的に捉える生徒が増加している。今後も、学びの課程を大切に授業改善を継続していくことが重要である。

◇中学校3年生(※全国値は公立校のデータ)

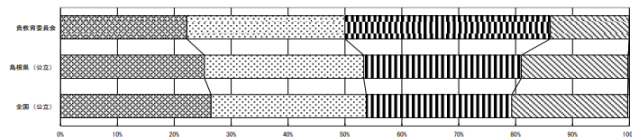


【 数学 】

- ・正答率は41%で県・全国より低い。
- ・全国や県との相対的な相違は変わらない。
- ・正答数の中位より下の層が多い。
- ・中央値は5問で、県より1問・全国より2問低い。

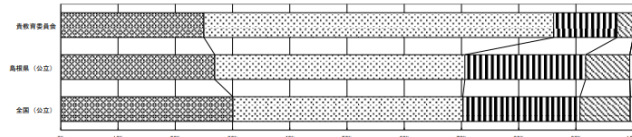
△数学の勉強は好きですか

肯定群 町:50% 県:53.3% 全国:53.8%



○数学の授業内容はよくわかりますか

肯定群 町:86.1% 県:70.6% 全国:70.3%



△「知識・技能」は県・全国を下回る

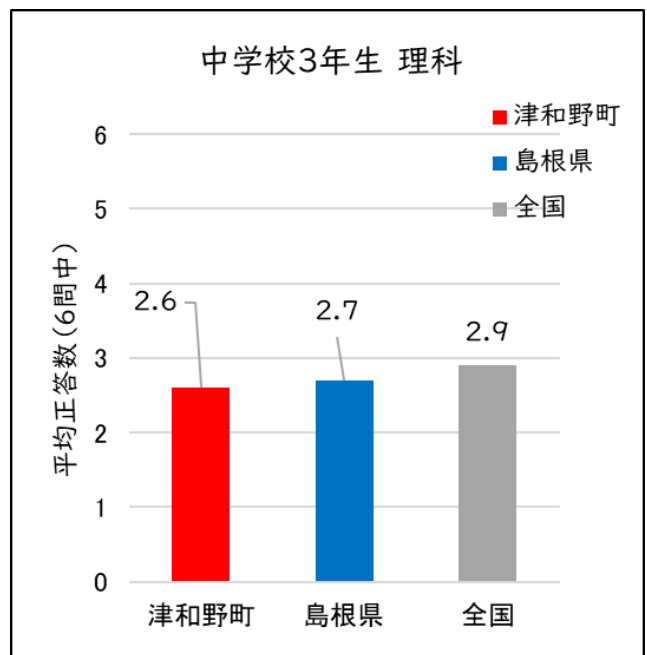
- ・「相対度数の意味を理解している」問題は、県・全国を下回る(県-17.3pt)。
- ・「事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげる」問題は、県・全国を上回った(県+7.8pt)。

△「思考・判断・表現」は県・全国を下回る

- ・「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する」問題は、県・全国を下回る(県-10pt)。

☆各校の取組により「数学の授業内容はよくわかる」と肯定的に捉えている生徒が県・全国を上回っている。今後も生徒が「できた・わかった」と実感できる授業を継続することが大切である。

◇中学校3年生(※全国値は公立校のデータ)

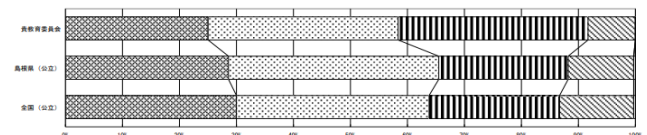


【 理科 】

- ・CBT で実施され、IRT スコアを利用しています。
- ・生徒一人が解く問題数は26問。このうち、公開問題が10問、非公開問題が16問。
- ・公開問題のうち、全日程に共通する問題が6問、実施日により異なる問題が4問の組み合わせとなっており、全日程に共通する6問の正答数を示している。

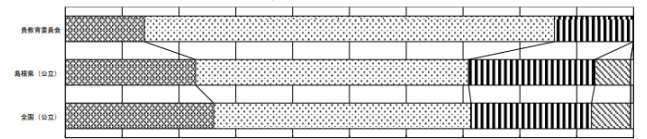
△理科の勉強は好きですか

肯定群 町:58.3% 県:65.5% 全国:63.8%



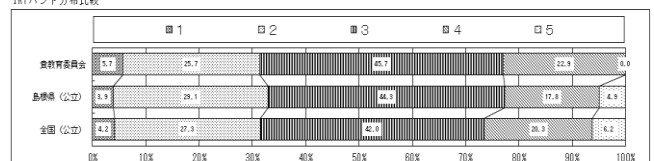
○理科の授業内容はよくわかりますか

肯定群 町:86.1% 県:70.9% 全国:71.4%



- ・平均IRTスコアは482。県494、全国503。
- ・IRTバンド1の割合が県・全国よりも多く、IRTバンド5の割合は0となっている。

IRTバンド分布比較



※IRTスコアとは、500を基準として学力を表示するもの。

※IRTバンドとは、IRT を1～5の段階に区切ったもの。基準バンドは3で、5が最も高いバンドを示す。